

特67

380

神拜詞

014281-000-1

特67-380

神拜詞

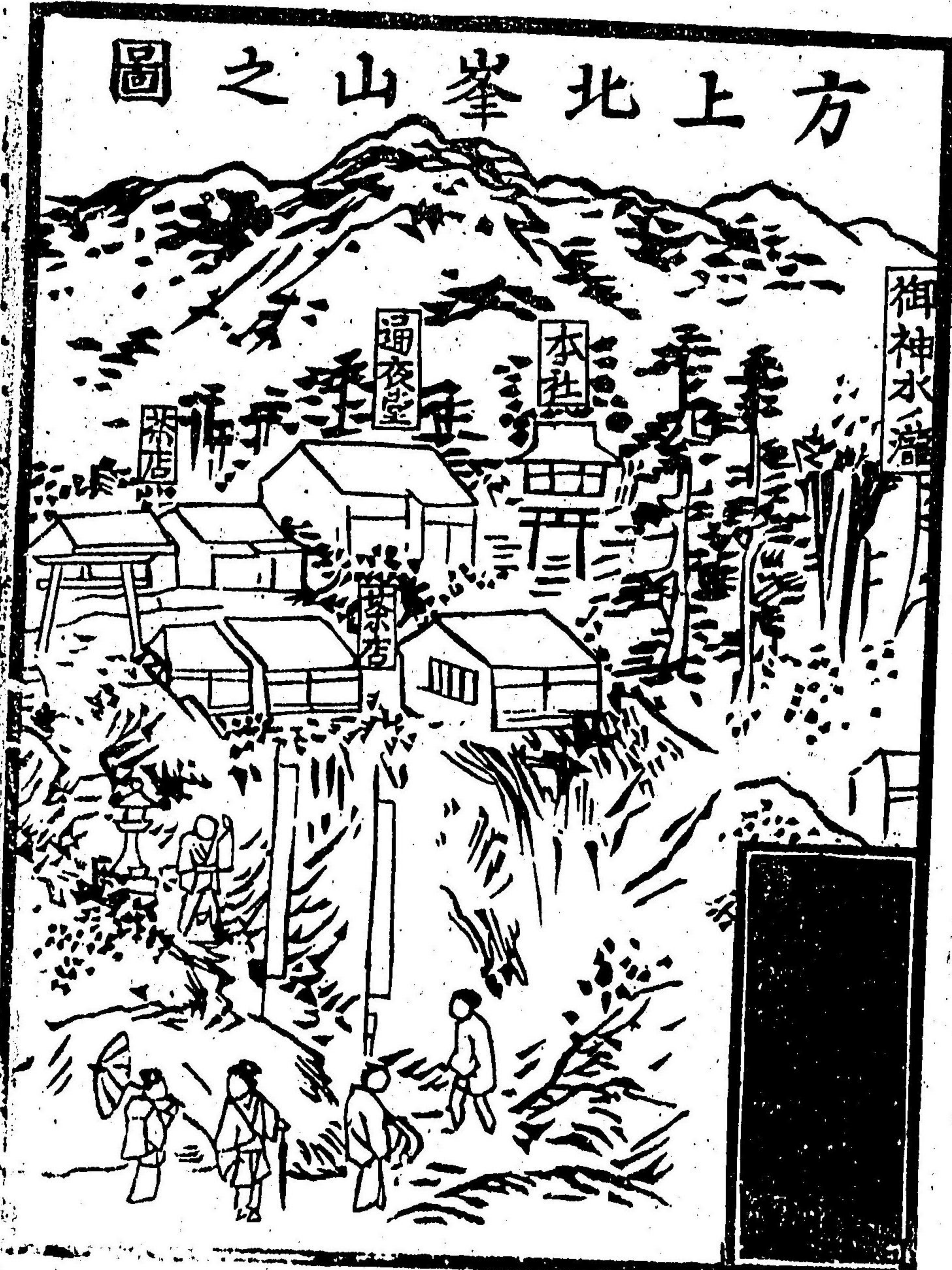
阿部 清次郎/編

M19

ABB-0623



方上北峯山之圖



明治十九年三月二十二日内務省刊行

阿波國勝浦郡方
村北峯山鎮座
森林神社拜詞

本社
 参詣する人々ハ先づ手水鉢にて
 手を洗ひ口を嗽ぎ身を清めて拜殿
 静かに祈る
 祈り清く朗聲に左の
 拜詞を申す

掛けまき
 掛巻も恐き被戸の大神達諸の
 枉事罪穢を被ひ給ひ清め給へ

と。白^{あま}事^{こと}の由^{よし}を。天神^{あまのつみ}地^ち祇^ぢ八^や百^{ひゃく}
萬^{よろ}の神^{かみ}達^{たち}共^{とも}ふ。平^{たい}らけく。安^{やす}らけ
く。聞^{きこ}食^{しめ}せと申^{まを}ん。

かく白^{まを}頭^{くわう}を上^あげ。袂^{たもと}ひ給^{たま}ひ。清^{きよ}め給^{たま}へ
と唱^{とな}へ。畢^{はつ}り手^てを二^{ふた}つ拍^{はく}ち拜^かむ。心^{こころ}を誠^{まこと}に立^たち。か
但^{たゞ}し此^{こゝ}被^ひ詞^{ことば}を唱^{とな}ふる時^{とき}不^あ當^{ちやう}り實^{じつ}不^ふ
心^{こころ}を誠^{まこと}に立^たち。か。つら。し。め。一^{ひと}點^{てん}も邪^{よこしま}念^{ねん}
阿^ある。應^{おほ}り。に。ん。

○さき又^{また}更^{さら}み手^てを二^{ふた}つ拍^{はく}ち拜^かむ
奉^{まう}まて左^{ひだり}の拜^か詞^{ことば}を申^{まを}ん。應^{おほ}り。に。ん。
此^{これ}の千^ち早^{はや}婦^ふる神^{かみ}形^{かたち}びふ。森^{もり}神^{かみ}社^{やしろ}
と稱^{なづ}辭^{ことば}竟^{つひ}奉^{まう}まて鎮^{ちん}座^ざま。大^{おほ}神^{かみ}の
御^み前^{まへ}を慎^{つつし}む敬^{やま}ひ。恐^{おそ}かま。し。も。大^{おほ}
神^{かみ}の高^{たか}く貴^{たか}き。神^{かみ}恩^{めぐみ}を蒙^{かま}まて。家^{いえ}
内^{うち}の者^{もの}ども。諸^{もろ}の禍^{まが}事^{こと}おく。諸^{もろ}の

災害^{わざい}形^{かたち}多^{おほく}く。各^{おの}も各^{おの}も家^{いえ}の業^{わざ}を怠^{おこし}
る事^{こと}おろく。緩^{ゆる}む事^{こと}おろく。同^{おな}心^{こころ}小^{ちひ}務^{つと}
め勤^{つと}む。相^あ扶^いけ。相^あ欠^ああひて。大^{おほ}
彌^や桑^く枝^えの如^{ごと}く。立^{たち}榮^さえ。賑^{にぎ}ふ家^{いえ}
と。在^あら。一^{ひと}め給^{たま}へと。願^{ねが}白^まを事^{こと}の
由^{よし}を平^{ひら}けく安^{やす}けく。聞^き食^く一^{ひと}給^{たま}ひ

て。惠^{めぐ}み給^{たま}ひ。幸^{さい}へ給^{たま}へと。恐^{おそ}そ惶^{けい}
みも白^まま。

○家^{いえ}の内^{うち}に本^{ほん}社^{しゃ}の掛^か軸^{じく}を齋^いき祭^{まつ}り
て毎^{まい}朝^{あさ}拜^をみ奉^{ほう}る。朝^{あさ}早く起^おき
息^{いき}手^てを洗^{あら}ひ。口^{くち}を漱^{すす}ぎ。身^みを清^{きよ}めて
神^{かみ}前^{まへ}に着^き座^ざ。初^{はつ}に記^きせ。被^ひ詞^{ことば}を白^ま
ち額^{ぬか}突^つ拜^をす。亦^{また}手^てを二^{ふた}拍^うち。額^{ぬか}突^つ
し。亦^{また}手^てを二^{ふた}拍^うち。拜^をす。初^{はつ}に記^きせ。被^ひ詞^{ことば}を白^ま

更お手を二つ拍ち拜り奉りて左の舞詞を申さばし

御食向阿波國勝浦郡方上の里
形る北峯山の神及び森神社
と稱言竟奉りて鎮坐大神の御
靈を招き奉り令座奉りて恐
惶とも拜み奉らく也大神の

伊勢兩宮の神靈を始め諸社の靈符を齋
奉る神棚へ合せ祀る時を以上の詞を左

此の神齋棚に齋ひ奉る神風の伊勢此
渡會の五十鈴宮に鎮坐掛巻も畏
天照皇大神外宮の山田原に鎮坐豊受
毘咩命を始め奉りて此里を領さ
大神天地の八百萬の大神等特
平素に信み奉る森神社に座を大神の御
前を慎み敬ひ恐るも拜み奉らく

大神等の
かく申して次の本文へつづく

廣ひろき厚あつた恩おん頼たのを被かりて命いのち継つぐ
 食物しょくもの衣きもの住家等すまひらうを始はじめ為なしと
 為なす諸しよの事ことを心こころ足たりらひ受うけ得え
 しめ給たまひ。家内いへうちの者もの共ども喪さう死しく事こと
 死しく安やすく穩おだひふ轉うつ樂たのしむ世よと
 渡わたりしめ給たまむ事ことを夜よの守まもり日ひ

の守まもり守まもり給たまひ幸さいへ給たまふと恐おそ
 る恐おそるも白まん。

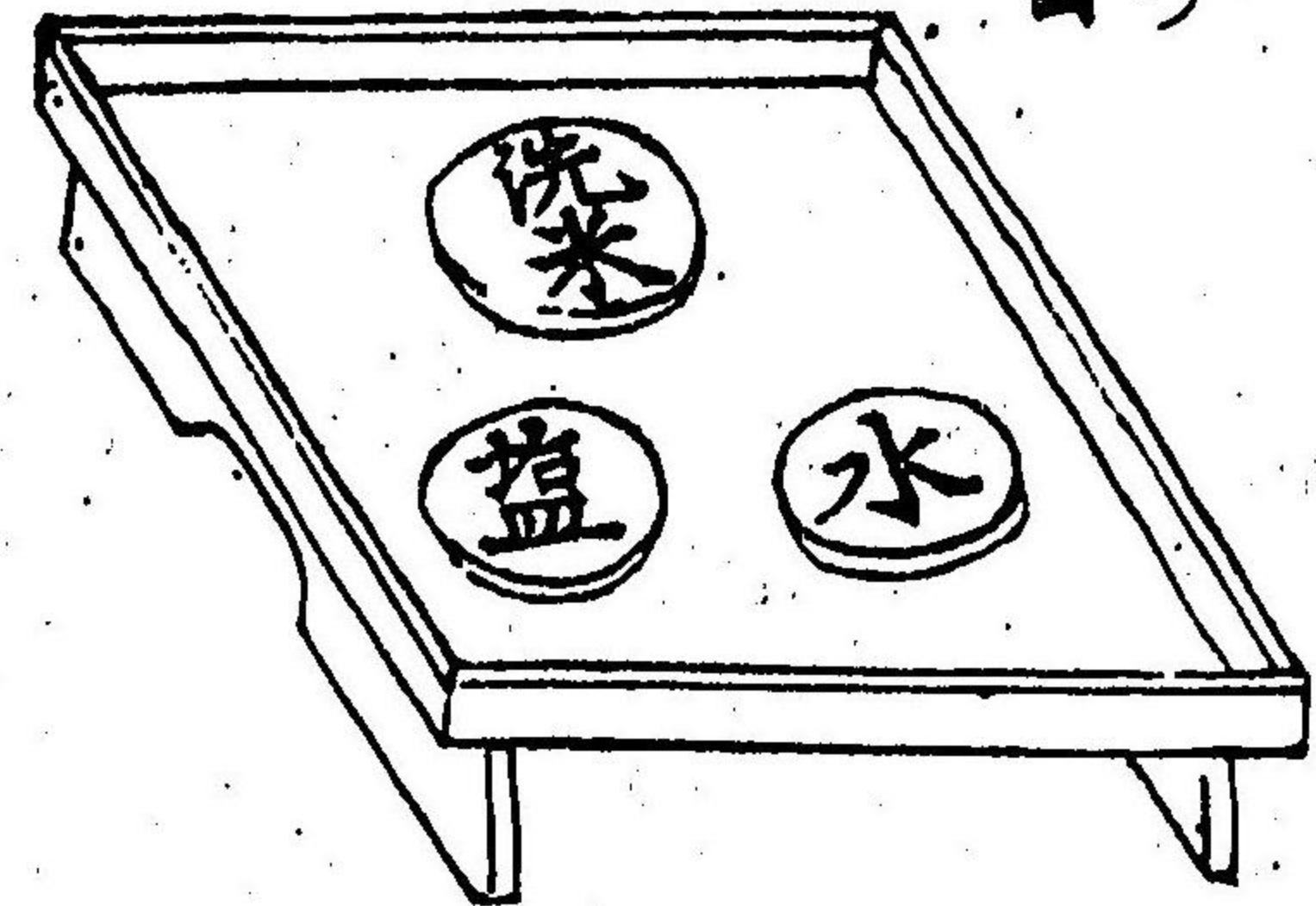
納な受うし給たまふ事ことを至いた誠まことの心こころに
 長ながしき祝いのち詞ことばを讀よみて拜まがむも神かみ祇ひめ
 通とほせし百ひゃく度ど千せん度ども被かりて唱なへて長なが
 拜まがりて後のち静しずか退ひく事ことを總すべて神かみ
 拜まがりの要えい旨めいと至いた誠まことの心こころを以もつて神かみの思し慮り
 申まをす事ことを二ふたつ拍うち拜まがりて

と専務と

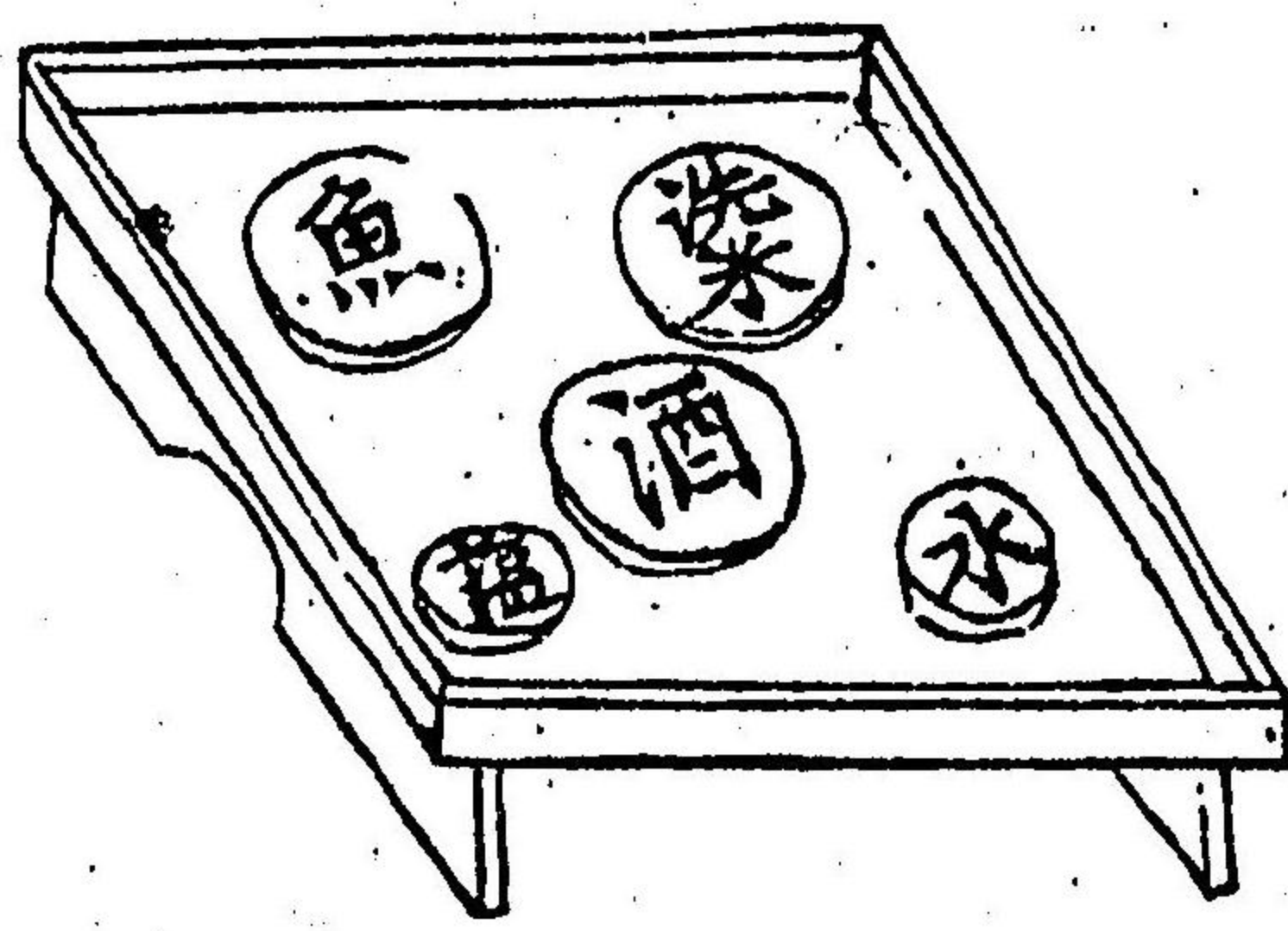
きんぐ

● 神供畧式の圖

平目



大祭 月日



鳥野菜海草菓物菓子あとも供ふるに適宜

○ 社參普通祝詞

此の所比下津岩根小官柱太高

敷て鎮座凡○○大神の御前を

慎ぞ敬ひ恐る恐るも拜て奉ら

く寶祚無疆天下太平五穀豐登

萬民康樂己等が家小も身小も

諸の災難^{あぢ}。形^{かたち}なく。親族^{うぢ}家族^{かぞ}睦^{むつ}び^び賑^{にぎ}を^をひ。家門^{いへ}廣^{ひろ}らふ。大^{おほ}く^く弥^や桑^{くわ}枝^えの如^{ごと}く立^た榮^ええしめ給^{たま}ふと。恐^{おそ}み^み恐^{おそ}も申^まん。

明治十八年九月廿九日御届
明治十九年二月刻成

定價三表五厘

編輯兼出版人

徳島縣士族

阿部清次郎

阿波國名東郡徳島
通町百七十三番地

